



令和8年2月27日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
1年学年だより 3月号

自分の力、みんなの力で大成功の「6送会」

2月は6送会やつどいに向かって、各学級や学年で忙しい中でも一つひとつ大切に計画し、進んできました。同時に進行していく2つの行事に向けて「6送会もあって、つどいもあって忙しい!」と話をしながらも懸命に準備に取り組む子どもたちからは「自分たちの力で作っていく」という確かな思いを感じました。6送会の発表時間は5分間ですが、その5分間で自分たちの思いを伝えるために何度も練習を重ねてきました。そして迎えた本番では、自分たちで笑顔や涙のあふれる会の雰囲気をつくり、素敵な発表となりました。6送会後に学年で行った振り返りでは、以下のような意見が出ました。

- ・泣いている子相棒さんもいて、思いが伝わったと思うよ。
- ・大変だったけれどやったかいがあった、楽しい送る会になったよ。
- ・6年生のプレゼントの「ぼくらまた」がすごく上手だったよ。感動した。
- ・思いが伝わったと思う。伝えられて安心したよ。

6年生の笑顔や涙に喜びを感じている子、練習した成果を本番で発揮できたことに達成感を得ている子、全校の前で発表し、無事に発表が終えられ安堵している子、この6送会を通して、様々な思いが子どもの心に残っていることが分かります。

「いつもお世話になったあいぼうさんが、中学校へ行ってしまいます。かなしいけど、あいぼうの手をひっぱらないといけなかったの、ゆうきをふりしぼって、みんながんばって、あいぼうをひっぱっていて、1~5年生がとてもしずかいかいをつくって、あいぼうに思いが伝わったとおもいました。」

これは、ある子が6送会後に書いた絵日記です。当日の心の声を文字で表してくれたようなとても素敵な日記でした。私たちは正面から1年生の入場を見られませんが、入場の際に「6年生に感謝の気持ちを伝えるぞ」「しっかりと6年生を送り出すぞ」と決意し、たくましい表情で入場してくれていたんだなど想像できます。他にも絵日記には「伝えるだけではなく自分にも伝わったものがあったよ」「6送会で感じた思いを自分の生活に活かして大切にしていきたいよ」など1年生ながらに表現し、思いを伝えてくれる文章がたくさんありました。学級の垣根を越え、みんなで1つのものを創り上げたこの経験は、子どもたち一人ひとりにとっても、またしあわせ1年生全体にとっても、大きな財産となったはずですよ。

しあわせの子どもと過ごす日々もあっという間に残り半月となりました。最近の子どもたちは、新2年生に向かって動き始めています。「2年生になるから、自分でやらなくちゃ」「先生が2人いてくれるのもあとちょっとだから頑張らなくちゃ」など子どもから2年生を意識した言動が多くみられます。1年生の生活を気持ちよく終え、新たに夢と希望を抱いて2年生に進めるよう、私達も全力でしあわせの子どもを支えていきます。